

# 管内経済情勢

(平成21年4～6月)

平成21年7月  
富山商工会議所

## 概況

### 全国の動向

◎内閣府が6月11日に発表した平成21年1-3月期の国内総生産（GDP）改定値によると物価変動を除く実質成長率は前期比3.8%減、年率換算で14.2%減と戦後最大の減少となった。輸出の落ち込みが拡大したのに加え、企業業績の悪化に伴い、設備投資や個人消費などの内需も減少幅を広げた。

ただし日銀が7月1日に発表した6月の短観によると、現在の景況感を示す業況判断指数は大企業製造業でマイナス48と過去最悪だった3月の前回調査から10ポイント上向き、急速な悪化には歯止めがかかった。また、日銀金沢支店が同日発表した北陸3県の6月の短観は、製造業がマイナス64と前回比4ポイント改善。同支店は「企業マインドは厳しい水準にあるが、下げ止まりの兆しが確認できる」とした。

### 富山地区の動向

◎調査対象のうち、前年同期比で売上が増加した企業は12.0%で前期比4.6ポイント増加したため、DIは6.1ポイント改善した。売上単価は、低下したとする企業が12.7ポイント増加し、DIは11.8ポイント悪化。仕入単価については低下したとする企業が9.5ポイント増加したため、DIは11.7ポイント改善した。採算については好転したとする企業が7.1ポイント減少したが、悪化も2.4ポイント減少したため、DIの悪化は4.7ポイント。

また前期比での業況は、好転とする企業が16.3ポイント増加したため、DIは42.1ポイント改善した。また来期の業況についても、好転とする企業が8.9ポイント増加したため、DIは36.2ポイント改善した。

◎輸送機械では、在庫調整の進展で減少幅は縮小するが、世界的に見て新車販売は依然低調なままであり、本格的な回復には程遠い状況。北米地区の需要回復が待たれる。

◎ショッピングセンターなど小売店では、客足には大きな変化は見られないものの、顧客の低価格志向がますます強まり、客単価が低下しており、売上は前年割れが続く。

◎旅行関係では、新型インフルエンザの影響は甚大。原油安・円高等で持ち直しつつあった海外旅行等に取り消しが相次ぎ、その後も受注状況は低調なまま推移している。

**付帯調査** ◎主要調査に付帯して「景気の現状をどう見ているか」を尋ねたところ、「足踏み状態」が前期から33.2ポイント増加して48.0%となり最多となった。これに次ぐのが前期最多だった「大きく後退している」で、前期から38.7ポイント減少して28.0%となった。また、「売上の下げ止まり感」については、「依然下がり続けている」が36.0%で最多の回答であり、「下げ止まったが、低水準」が32.0%、「回復に転じた」は12.0%であった。

---

## 1. 生産活動

---

**一般機械** ◎製造業の設備投資凍結状態が続き、輸出も弱いままで、底ばい状態から脱却できず。

**電子部品** ◎設備機械やロボットなど産業機器は不振続くが、液晶テレビ向け電子回路モジュールなどが上向き。在庫調整も進み依然低水準ではあるが、最悪期は脱した感がある。

**輸送機械** ◎ハイブリッド車など一部の車種向け部品のみ好調であり、生産ラインごとの稼働率に大きな差。全体としては、受注不足は未だに深刻な状態が継続している。

**プラスチック** ◎消毒用容器等医薬品容器が引き続き好調ながら、全体として売上は前年実績を下回る。ただし、顧客の品質要求を満たすため設備更新は必要。

**医薬品** ◎ジェネリック薬は全般に好調ながら、受託生産を受注するためには、生産コストの引き下げ・生産能力の向上のため設備投資が必要であり、また生産額に比べ加工費の伸びは大きくなく、収益の確保が課題となる。

**紙・紙加工** ◎医薬品パッケージ用白板紙は引き続き好調だったが、企業の広告費削減でチラシ、カタログなど商業印刷用洋紙は不振。

**リース** ◎景気回復傾向が若干見られ、リース実行高が前年同期比で増加。省エネ設備、医薬品製造業などが好調だが、価格競争が一段と激化、不景気の影響で延滞先も増加してきている。

**物流** ◎世界的な景気後退で貿易荷物量の低調が続き、底はまだ見えてこない。

**電力使用量** ◎県内の電力使用量（製造業/大口契約/北陸電力調べ）は前年同月比で3月32.8%減、4月23.1%減、5月19.6%減と前年同月割れが続くが、減少幅は縮小傾向。

---

## 2. 消費関連・物価・その他

---

大型小売店・専門店

- ◎ 県内の大型店の売上高（百貨店＋スーパー、既存店／中部経済産業局調べ）は、前年同月比で3月は9.4%、4月は7.4%、5月は4.4%いずれも減少。昨年8月から10ヶ月連続の前年同月割れとなった。
- ◎ 百貨店では景気の低迷により、主力の衣料品、宝飾品などの高額商品を始めとして低調な売上が続く。
- ◎ ファッションビルは消費者の節約志向、慎重な消費態度、低価格志向などを受けて、衣料品の不調が続く。
- ◎ 婦人服専門店では、Tシャツ特にフリル付など女性的なデザインのものは比較的好調だったが、ジャケット、レインコートなど重衣類は低調なまま。
- ◎ 家電では、エコポイント効果で大画面テレビなどに動き。

#### 青果卸

- ◎ 景気低迷の影響で、メロンや桃などハウス栽培の高級果実の消費が極端に落ち込む。また、スーパーの開店が相次いだことで、低価格競争に拍車がかかる可能性が高まる。

#### 旅行・飲食

- ◎ 比較的好調だったのは修学旅行のみで、その他全ての分野では、新型インフルエンザの影響が大きく不調。夏の海外旅行シーズンも前年度割れが予想されるが、9月の大型連休に期待。
- ◎ 飲食店では、宴会需要の低迷に加えて、コンビニ等の低価格弁当の充実とランチ予算の減少でランチタイムの客数も減少。新型インフルエンザで外国人観光客も激減、売上は厳しい状況が続く。

#### 情報関連

- ◎ ユーザーのIT投資意欲は足踏み状態が続き、新規案件は殆ど出てこないが、製造業、金融業など一部業種で更新案件の動きが出始める。コンピュータシステム維持管理コスト削減効果の出やすいもの、セキュリティ関連などが中心。

#### 新車販売

- ◎ 当四半期（4～6月）の自動車登録台数（軽自動車を除く、富山県ベース）は、普通乗用車が前年同期比18.5%の減少となったほか、全体でも22.3%減と大幅に落ち込む。（富山県自動車販売店協会調べ）。軽自動車も前年同月比割れが続き、4～6月は前年比17.6%の減となった。（富山県軽自動車協会調べ）。

#### 建設工事

- ◎ 富山市内の新設住宅着工戸数は、前年同期比3月22.7%減、4月18.2%減、5月22.0%減とほぼ前年の8割で推移。一方県内の公共工事受注は前年同期比で4月が77.1%増、5月27.2%増と増加傾向。（富山県・東日本建設保証㈱富山支店調べ）。

#### 物価

- ◎ 富山市の消費者物価指数（平成17年＝100）は、食料などの上昇により、3月＝99.2、4月＝99.9、5月＝99.8と今年2月（98.8）を底にやや上昇傾向に転じた。

**原油価格** ◎原油先物価格（ニューヨークWTI・月平均）は、4月＝49.96ドル/BL、5月＝59.21ドル/BL、6月＝69.70ドル/BLと今年2月を境に上昇が続く。

**為替相場** ◎円ドル相場（東京市場／中心相場・月平均）は、4月＝99.00円/ドル、5月＝96.30/ドル、6月＝96.52/ドルと小幅に動く。

---

### 3. 労働

---

**有効求人倍率** ◎富山公共職業安定所（ハローワーク富山）管内の有効求人倍率（季節調整前）は、3月＝0.44、4月＝0.40、5月＝0.41と0.4倍台で推移。

---

### 4. 企業倒産

---

**県内の企業倒産** ◎当期（4～6月）の県内の企業倒産（負債総額が1,000万円以上／東京商工リサーチ調べ）は、37件、69億5千1百万円。前年同期比では、件数は微増ながら、負債総額は61.6%減少した。